

# 東京衛生管理者協議会 令和2年度第1回研修会・定期総会開催



東京衛生管理者協議会(会長 吉川智明)の令和2年度第1回研修会及び定期総会が、令和2年10月28日(水)、(公社)東京労働基準協会連合会中央労働基準協会支部4階ホールにて、会員77名(内オンライン参加44名)が参加して開催されました。

今回の研修会は、「新型コロナウイルス感染症に対する労働衛生行政の取り組みと直近の労働衛生行政の動向について」、「コロナウイルス感染症最前線～未曾有のウイルス感染症にどう対応するか?～」、「新型コロナウイルス感染症防止対策に関する事例報告」という3つのテーマで構成されました。

新型コロナウイルスの感染拡大に鑑み、会場参加者について通常行っている各企業の衛生管理者の方々によるグループ討議は中止とし、また遠隔地の会員も受講できるよう「Microsoft Teams」を利用したオンライン参加者も募集し、開催致しました。

第1部の研修会では、吉川会長の挨拶の後、東京労働局労働基準部健康課長 関憲生様から「新型コロナウイルス感染症に対する労働衛生行政の取り組みと直近の労働衛生行政の動向について」と題して、新型コロナウイルス感染症関連について職場における新型コロナウイルス感染症の拡大防止の取り組み、健康診断の実施、安全衛生委員会活動・労働者死傷病報告の提出などの各重要施策ポイントについて、ご説明いただきました。

また、規則等の改正関係情報として、令和2年に施行された有機溶剤、特定化学物質、鉛、四アルキル鉛における特殊健康診断の項目見直し、健康診断個人票・定期健康診断結果報告書等への医師等の押印についてご説明いただきました。

その他事項としては受動喫煙防止対策助成金、産業保健フォーラムについてご説明いただきました。

今後、事業場で衛生管理活動を進めるにあたり留意すべき項目、内容を事前に把握することが出来、今後事業場として準備すべき点が明確になり、大いに参考になる内容でした。

次に、横浜市立大学医学部救急医学教室医学博士助教 小川史洋様から「新型コロナウイルス感染症最前線～未曾有のウイルス感染症にどう対応するか?～」と題して、新型コロナウイルス感染症に関する発生源と国内外の対応から各企業での対策についてご講演いただきました。

講演では新型コロナウイルス感染症の国内外での対策、感染した際の症状や各診断内容、これからの新型コロナウイルス治療方法、新型コロナウイルス感染症の対策における問題点、各企業での新型コロナウイルス対策(退院基準と職場復帰の目安、コロナ禍におけるメンタルヘルス対応、産業医との連携)など事例に基づいたご説明をいただきました。

実際に新型コロナウイルスの現場最前線で、重症度により層別化したシステム(COVID-19 神奈川モデル)により軽症例に紛れ込んでいる治療が必要な感染者を早期にピックアップするリスク対策など、実体験を交えてご紹介いただき、大変有意義な講演となりました。

続いて、HOYA株式会社環境・安全衛生部 稲井敬太様から、「新型コロナウイルス感染症防止対策に関する事例報告」と題して、HOYA株式会社における新型コロナウイルス感染症対策への取り組みをご紹介いただきました。

HOYAグループでは2020年1月より情報収集や、出勤可否及び受診対応のフローチャートなどを用いてグループ内への情報の周知を進め、その後は危機管理対策チームの設置など体制づくりを行い、情報共有や意思決定を迅速に実施。

また、情報共有プラットフォームを設定し、事業所単位での稼働状況、従業員の感染等発生状況等を確認。週単位での情報収集シートの活用やガイドラインに基づいた感染予防対策の導入と教育の実施について事例を交え、ご紹介頂きました。

感染症対策の実施は、対策導入を行い、教育を進め、監査(セルフチェック)の実施を一連の流れで運用することにより、効果的かつHOYAグループでの対策導入を確実に進めていくことが出来たという総括は、参加者が今後対策を策定する参考となり、大変有意義な講演となりました。

第2部の総会では、令和元年度事業実施報告、収支決算報告、令和2年度事業計画(案)、収支予算(案)について審議され、承認されました。

総会後の幹事会におきまして、第1回研修会の結果について検討。更に、第2回研修会の持ち方等についても協議しました。

東京衛生管理者協議会の事務局は、(公社)東京労働基準協会連合会が行っており、入会の事務も行っています。「東基連」のホームページに「東京衛生管理者協議会加入のご案内」のバナーを掲載しておりますので、是非ご覧ください。新たに加入される方をお待ちしています。



横浜市立大学  
小川史洋様



HOYA株式会社  
稲井敬太様